

一期
家 03

浅川
建工

大切なのは、
私たちらしい暮らしを楽しむこと。
家族みんなが笑顔で暮らせること。
家があって、暮らしができるのではなく、
暮らしがあって、家ができる。
今日を見つめ、明日を思い描きながら
ひとつずつ創りあげていく、
暮らしに寄り添う心地いい住まい。



毎日が心地いい、
すこやかな家

ゆったりとした空間のリビングは、床も天井も腰板も北欧のバイン材。自然素材は子どもたちにもやさしい。

文/荻野由香 撮影/井上直樹



東南に設けた玄関は南側に2つの窓があり、風も光も入ってくる気持ちいい場所。

大屋根のどっしりとした構えの外観。ストーブの煙突も目印に。



黄色のポストが目を引く玄関。シンプルな装い。

木をふんだんに使ったリビングには、オイルレザーの大きなソファを置いて。



階段の踊り場にも横長の窓を設けた。北側から涼やかな風が入り込む。



キッチンはやさしいピンク色を配してやさしい印象。壁の一部に使った花柄がアクセントに。

ずっと長く暮らしていくから
堅実で頑丈な家がほしい

「堅実な家がほしい」。そんな思いを持って家づくりを始めたというT様ご夫妻。

「家はずっと長く暮らしていくものだから、見かけだけにとられず、構造など基本がしっかりしている頑丈なのがいいと思っていました」。その考えにびったりきたのが、浅川建工だった。

「工務店や建築会社など何社も回り、説明を受けましたが、デザインとか見た目の話が多くて。そんな中、浅川建工さんは初めてお会いした時に、「うちは耐震と木に自信があります。まず基本をストレートに訴えたんです。ね。さらに建てた家を見せてもらったら、ダブル断熱や自然素材など、暮らしやすい家というのがよくわかって、ここならしっかりした家ができると思いました」と主人。

さらに奥様も、浅川さんの人柄も決め手のひとつでしたね。数回会っただけで、この人なら信頼できるねって、夫婦そろって感じたんです。というこり。

「何回やったのかわからないほどの打ち合わせを行い、話し合いに話し合いを重ねながら、家づくりは進んでいった。

「主人は仕事から帰ってきて疲れているだろうに、夜な夜な図面とにらめっこしていましたよ。それも楽しそうに」と奥様。

「図面を見ながら、動線とか風の抜け方とか、いろいろ想像してみましたね。家に帰ってきたら、まずリビングに入ってきたか、頭の中で1日の行動なんかもいろいろシミュレーションしました。風もこの窓から入ると、こっちに抜けるかなとか考えながら、とにかく毎日が暮らしやすい家にしたと思うって、いろいろ考えました」

